

平成28年7月

# [ダンス]JBDF と JDSF の状況

今年の競技会も前半戦が終了した。夏場に競技会が開催されないわけではないが、余り多くない。今回は、ダンス界の2大組織の状況について触れてみたいと思う。

## (1) JBDF 関係

今年4月に本部役員体制が刷新されたことは、既に述べた。それまでDSCJにコミットすべく活動を進めていた役員が辞任し、EJ-BDF 石原会長以下WDC サイドに立つ役員が就任し軌道修正が図られることとなった。

これに伴い、JBDF 本部から除名されていたWJ-BDF (JBDF 西部) の除名が解除となった模様だ。「模様だ」と書いたのは、未だに正式発表されていないためだ。昨年西部を除名した時は、本部から除名処分に関するプレスリリースを行い、これに対して西部は処分の不当性を訴える文書をHP上で発表していた。いずれの記事も現在は削除されているが、逆にどのような理由で処分が解除されたかに関して、公式な発表がなされていないところが問題だ。

ダンス業界の隠ぺい体質の悪い面が出ていると思う。ダンスに限らず、バスケットボールやテコンドーなど、組織の分裂騒動に見舞われたスポーツはいくつもある。その他の社会的な問題でも、これまで以上に説明責任を問われる時代となってきている。そこに適切に対応しないと、東京都舛添知事のように、厳しい社会的制裁を受けざるを得ないこととなる。JBDF 内部の路線闘争によって、昨年の日本インターは寂しい大会となり、今年は開催されないこととなった。多くのダンス愛好家に寂しい思いをさせたわけだから、関係者はきちんと事実経過を広く知らしめるべきだと思う。どうも、そういった事象とは、自分のところは関係ないと思っているようであるが、そのような姿勢そのものが業界の衰退を招く原因となることに思いを致してほしいと思う。

## (2) JDSF 関係

1カ月ほど前に、内部組織が改編され、新たにPD本部とボールルーム本部が設置された。PDとはプレミアムディビジョンの略で、上部団体のWDSFにもPD部門はあるが、こちらの方はプロフェッショナルディビジョンの略だ。JDSF/PD部門には、事務局、技術部、競技部、国際部、審判部などが設置され、JPDSAなどの団体の役員が就任している。本部長は、JBDF 本部長を辞任した田邊重光。副本部長に玉置朝啓、酒井文男などが就任している。

ボールルーム本部のほうは、会長代行に田邊重光、副本部長に浅野勉、小川純。この下

にダンス教室事業推進部、ボールルームダンス普及部、ボールルームダンス資格管理部などが配置されている。

PD ブロック運営委員会も設置され、北海道、東北、関東、中部、西部、九州の各ブロックが配置され、JPDSA の地方ブロックと NJDC の役員及び JDSF の役員が配置されプロアマのバランスを考えた配置となっている。

こうしてみると、JDSF のほうはプロ競技に相当する部門を設置したように見える。ダンスビュー誌にそのあらましが記載されているようであるが、詳細は確認していない。NJDC は DSCJ のアマ競技を開催しているのであまり影響はないが、JPDSA のほうは組織体が完全にダブるような状況が予想されるので、今後どのような状況となっていくのか注視したいと思う。

WDC と WDSF を見ると、アマ組織が弱かった WDC がアマリーグ (AL) を立ち上げ、プロ部門が弱かった WDSF は PD を設置したのに似て、JBDF の上部団体の NDCJ は、アマリーグを発足させ、JDSF は PD を設置と、同じような組織改編を行っている。今後は JBDF と JDSF の 2 つの勢力に収れんしてく流れだろう。

JDSF の目標は、国体参加とオリンピック参加となっている。今年開催された岩手国体では、デモンストレーション競技として冬と夏の 2 回にわたり入門講座が開かれた。合計 8 回の講座であったようだが、参加者数は延べ 2 5 6 名。1 回平均として 3 2 名。この参加者数で、本競技として採用されるためのデモンストレーションとしての効果があったのかどうか。ただ、このような地道化活動の積み重ねが必要であることは言うまでもない。

願わくは、競技団体が統一されてこのような活動を推進できれば、より大きな力になるだろう。